



OITA VICTIM SUPPORT CENTER

ニュースレター

公益社団法人 大分被害者支援センター広報誌
2020年3月発行 発行責任者 三井嘉雄



2020
MARCH



写真: 津久見市の河津桜(撮影者: 支援活動室長 藤澤 由美子)

大分県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体
公益社団法人 大分被害者支援センター

〒870-0037 大分市東春日町1番1号 事務局 TEL:097-532-7776
メール: info@ovsc.jp ホームページ: <http://www.ovsc.jp>

秘密厳守
相談無料

相談電話 **TEL:097-532-7711** (月～金 9時～20時)



被害者支援はいつまで続くか



公益社団法人
大分被害者支援センター
理事長 **三井 嘉雄**

これは私のこの文章の表題であるとともに、私自身に対する問いかけであり、答えも決まっています。

大分被害者支援センター設立のきっかけは、不幸な出来事が発端でした。今から20年前の8月、大分県内のむしろ田園風景の広がる地で、一晩で一挙に3人の尊い命が奪われ、幸い命を取り留めた方たちも、心身に重大な傷を負わせられるという悲しい事件が勃発しました。一体こんな酷い結果を、何故被害者らが負わなければならなかったのでしょうか。

この事件には、被害者の支援のため、多くの臨床心理士や弁護士らが立ち上がり、連絡を取り合い、今まで経験したことのない様々な壁にがむしゃらに立ち向かいました。少年に対する捜査記録の開示を要求し、家庭裁判所の裁判官に、遺族の痛切な悲しみを伝える機会を得ました。加害者が少年である以上、将来必ず社会に出てきます。その時には被害者遺族がおびえて暮らすことの無いよう絶対大分に帰ることがないように教育することを矯正当局に求めました。

それらのことは何とか実現しました。しかし、どんなに記録を調べても、被害者らが被害にあう理由が見出せません。ただただ加害者が理不尽で、理由のない凶行に及んだのですから、被害にあう理由なんてあるはずがありません。そうすると、常に頭の中に去来したのは、先ほどの被害者らは何故こんな悲しみを負わなければならなかったのか、という問いであり、もしかしたら何の理由もない犠牲ではなかったのかという疑問だったのです。

ですから、この被害者支援に立ち上がった仲間たちで、この問いを前にして議論を何か月もしたのです。

そこで見出した答えとも言えない答えが、「被害者支援センターを作り、これからも社会が生み出す犯罪被害者に対し、決して一人にせず、ずっとそばに立ち続けよう」ということだったのです。この決して被害者を一人にしない被害者支援センターを設立しましたということだけが、尊い犠牲を払われた被害者に対し、唯一伝えられることと確信したからなのです。

はい、そうすると表題の答えはもうわかりますね。そうです、少なくとも「命の続く限り」ということが私の答えなのです。

私たちは、その覚悟でいます。

そのほか話したいことはまだまだあります。それは今度お会いした時に。ではまた。

感謝状の贈呈

当センター理事 岩男 好貞 氏は、病氣療養中のところ、令和元年8月7日にご逝去されました。享年82歳。

故人は、大分県警察に39年間奉職し、刑事部長を最後に平成7年3月退職されました。

その後、平成28年5月29日に当センターの理事に就任し、事業が円滑に、かつ適正に実施されるよう指導監督に努めるなどセンターの運営に多大な功績があり、また、大分中央ロータリークラブの被害者支援サポート委員会の委員長として寄附金や賛助会員の獲得に尽力するとともに、被害者支援バザー等の諸活動に積極的に参加するなど当センターの発展に多大な貢献をされました。

これらのご功績に対し、故人のご令室に感謝状を贈呈しました。





大分市講演会



テーマ

「いのちの重さを見つめ続けた18年」
～愛(かな)しみと共に生きる～

講師

本郷 由美子 様

(大阪教育大学附属池田小学校事件のご遺族)

令和元年12月8日(日)県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」の2階で「犯罪被害者支援講演会～これからの支援を考える～」を開催しました。

平成13年に起きた大阪教育大学附属池田小学校事件のご遺族である、本郷由美子さんを講師にお迎えし、「いのちの重さを見つめ続けた18年～愛(かな)しみと共に生きる～」と題して講演していただきました。

本郷さんは、平成13年6月8日、当時、小学2年生の長女「優希さん」を一人の男の凶行により亡くされました。

本郷さんは、「事件直後、娘の死を受け入れられない中、捜査への協力や葬儀の準備、報道対応などに追われました。そして社会に対する不信感が募り、自尊心が傷つき、幾重もの喪失感を抱え、死ぬことも生きることもできない絶望の中にいました。そんな中、娘が最後まで生きようとして教室から廊下まで68歩も歩いたことを知り、その足跡を何度も何度も歩いているうちに、本当に生きるのがつらかったけれども、命尽きるまでしっかり生きようと思えるようになりました。悲嘆感情には終わりはありませんが、悲嘆の「質」は変わってきます。」と語られました。

また、被害者の家族が事件後直面する事態や二次被害について語られ、周囲の人の配慮の必要性や犯罪被害者等に寄り添うことの大切さを訴えました。

本郷さんは、自身の辛い経験から、グリーフケア(悲嘆感情の手当て)を学び、喪失体験をされた方に寄り添う活動のほか、グリーフケアを広める講演や研修を行うとともに、命の価値・命の力・共に生きることを「いのちの授業」で子ども達に伝える活動も行っています。

講演当日は、150名もの方が参加され、穏やかに語りかける本郷さんの話しに真剣に聴き入っていました。





広報活動

イオンの幸せの黄色いレシート

毎月11日、イオングループのお店において、精算時に発行される黄色いレシートを、店内に設置されている投函BOXに投函して頂きますと、レシートの合計金額の1%分のギフトカードがイオン株式会社より寄贈されます。

当日、大分被害者支援センターもボランティアの方々と共に店頭に立ち声掛けをしています。

トキハ本店前・竹町ドーム広場

トキハ本店前と竹町ドーム広場で、ポケットティッシュを配布し、地域の皆様に支援活動を広く理解していただくため、広報活動を行っています。

もし見かけたら、お気軽にお声掛けください！



寄付金付自動販売機・募金箱設置協力をお願い

寄付金付自動販売機・募金箱設置につきまして、県下各警察施設をはじめ各企業や店舗の皆さまのご理解とご協力を頂き、心よりお礼申し上げます。

当センターでは、被害者支援活動の一層の充実をはかるために、寄付金付自動販売機・募金箱の設置をお願いしております。

寄付金付自動販売機は、自動販売機から飲み物を1本買うたびに、売り上げの一部が被害者支援に寄付される仕組みになっています。

趣旨に賛同し、設置していただける事務所・施設・団体様を広く募集しています。

事務局へご連絡いただければ、説明にお伺いいたします。

お問い合わせは、電話やメールにて受け付けていますので、皆さまのご協力をお願い致します。

《 皆さまのご協力をお願い致します 》

自動販売機・募金箱の設置協力に関するお問い合わせ先

- 電話番号：097-532-7776
- メールアドレス：info@ovsc.jp



ホンデリング ～本でひろがる支援の輪～



ご自宅や職場に、眠っている本・CD・DVD等をご寄付ください。

あなたのご寄付で、犯罪被害者支援の輪が広がります。

皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

- 1 ISBN(国際標準図書番号)コードのついた書籍等を選択してください。
- 2 段ボールや紙袋を準備して、申込書(贈与承諾書)にご記入の上、本と一緒にいれます。
- 3 株式会社バリューブックス **0120-826-295** に電話してください。
- 4 株式会社バリューブックにて、買い取られます。

買取金額の一部は、公益社団法人大分被害者支援センターに寄付されます。

- 5 公益社団法人大分被害者支援センターにて、犯罪被害に遭われた方々の支援に活用させていただきます。

対象のもの5点以上
(1回3箱まで)
宅配業者が無料で
ご指定の場所へ
引取に伺います



犯罪被害者支援の日キャンペーンバザー

「全国犯罪被害者支援の日」の取り組みの一環として、9月14日(土)に大分市竹町ドーム広場にてバザーを開催しました。

当日はお天気もよく、バザー日和！大分舞鶴高校の生徒さん、ボランティアの方にもご協力いただき、無事にバザーを行うことができました。

物品をご提供いただいた皆さま、バザーに足を運んでくださった皆さま、ありがとうございました。

さいき交通安全フェスタ

令和元年10月27日(日)佐伯自動車学校において、さいき交通安全フェスタが開催され、大分被害者支援センターも広報啓発活動の一環として今回も参加しました。

当日のミニバザーでは、多くのお客様からお買い上げいただき、好評を得ました。

又、ステージ上のセンター活動紹介では、センター発足から現在に至る経緯を呼びかけました。

地元高校生によるダンスパフォーマンスもあり、会場は活気にあふれ、地域に根付く行事に参加でき、センターの存在を知っていただく有意義な一日になりました。



県警ふれあいコンサート

令和2年2月15日(土)iichicoグランシアタにおいて「第32回県警ふれあいコンサート」が開催され、2階のロビーで広報・募金活動を行わせていただきました。

また、司会者である民放のテレビキャスターがコンサートの中で、当センターの紹介をしてくださったことから、ご来場の多くの皆様がお帰りになる際にわざわざ足を止めて、募金をしていただきました。

ご協力、大変ありがとうございました。

なお、賜りましたご寄付は、被害者支援活動に活用させていただきます。



DEAR FRIENDS チャリティーコンサート

令和2年2月16日(日)午後1時半にJ:COMホルトホール大分で「犯罪被害者支援チャリティーコンサート」を開催しました。

初代「かぐや姫」メンバーの森進一郎さんがリーダーを務める「DEAR FRIENDS(ディアフレンズ)」が出演し、1960~70年代のフォークソングを中心に懐かしい曲を披露して、600名の観客を大いに魅了しました。

このコンサートは被害者支援の必要性を訴えるため、隔年で開催しており、入場料千円(全席自由)で、収益金のすべては被害者支援の活動資金に使われます。

また、来場していただいた多くの皆様からコンサート終演後に、募金もしていただきました。

本当にありがとうございました。

賜りましたご寄付は、チケット収益金とあわせて支援活動に使わせていただきます。





全国犯罪被害者フォーラム2019・秋期全国研修会

令和元年10月18日(金)～20日(日)の3日間、未曾有の被害をもたらした台風19号から1週間後の東京で開催された全国犯罪被害者支援フォーラム2019及び秋期全国研修会に、大分からは2名が参加致しました。

18日(金)のフォーラムでは、妹様を殺人事件で亡くされた松井 克幸氏の講演で、遺族の心情や被害者が声を上げなくても守られる社会の実現に向けての活動について拝聴することが出来ました。

「被害者の生の声が必要」「被害者が我慢するのではなく」という言葉が心に残りました。19・20日の秋期全国研修会では各文科会に分かれ講義を受け、全体会では「地域社会における生活支援」をテーマとした横浜市市民局犯罪被害者等支援担当の木元様と、ハートバンドの鴻巣様との対談を聴講しました。

今回の研修のパネルディスカッションで、子どもの目線に立って、地域社会全体で被害者支援を考えていくことの大切さを学び、今後の支援に役立てたいと思いました。

全国被害者支援ネットワーク質の向上研修下半期九州・沖縄ブロック研修

令和元年度質の向上下半期研修会(九州・沖縄ブロック)が沖縄被害者支援ゆいセンターの主催で、2月1日から、なほ市民協働プラザで開催されました。

当センターからは、相談員2人が自らの課題克服と、より一層の資質向上を目標に参加しました。グループ討議やロールプレイなどのプログラムが組み込まれるなど、盛り沢山で実りある研修会でした。また、他県の相談員との交流を深めることができました。



ボランティア養成講座開講

2月29日(土)と3月1日(日)の2日間、令和元年度の被害者支援ボランティア養成講座を開催しました。

講師は弁護士・臨床心理士・職員・被害者ご遺族などで、受講者は真摯な態度で受講し、被害者支援に必要な基礎知識等を研修しました。

当センター理事長から、受講者全員に修了証を授与しました。



お知らせ

2020年度主な行事予定

- 2020年06月下旬：別府市講演会
- 2020年09月下旬：バザー
- 2020年11月下旬：大分市講演会
- 2021年02月下旬：ボランティア養成講座
- 街頭広報活動 (毎月1～2回程度)



センターの運営を支えてくださる皆様

センターの活動は皆様の温かいご支援により支えていただいております。心より感謝申し上げます。

振込用紙で、ご芳名掲載を了承して頂いた法人・個人・団体の掲載をさせて頂きました。記載漏れ、誤字脱字等の不備がございましたら、お手数ですが、事務局までご一報くださいますようお願い申し上げます。次回のセンターニュースにて記載させていただきます。

敬称略 <2019年8月～2020年3月納入分>

【個人賛助会員】

足立 竜二
池邊 廣司
岩下 賢一
岡本 昌三
甲斐 敏幸
倉橋 公生
佐々木盛二
佐藤 一彦
園田 正和
平田 芳樹

【法人賛助会員】

社会福祉法人 別府光の園

【寄付金】

西郷 國太
竹中多賀子
利光 宏司
木村麻美子
松崎 好美
佐伯自動車学校
児童養護施設 光の園職員一同
警務部
総務課
広報課
会計課
警務課
教養課
厚生課
監察課
留置管理課
情報管理課
生活安全部
生活安全企画課
地域課

通信指令室
人身安全・少年課
生活環境課
サイバー犯罪対策課
刑事部
刑事企画課
捜査第一課
捜査第二課
組織犯罪対策課
鑑識課
科学捜査研究所
交通部
交通企画課
交通指導課
交通規制課
運転免許課
交通機動隊
高速道路交通警察隊
警備部
警備第一課

警備第二課
機動隊
警察学校
大分中央警察署
大分東警察署
大分南警察署
別府警察署
杵築日出警察署
国東警察署
豊後高田警察署
宇佐警察署
中津警察署
玖珠警察署
日田警察署
竹田警察署
豊後大野警察署
佐伯警察署
臼杵津久見警察署

賛助会員募集

私たちの活動は、皆さまの会費・寄付により支えられています。一緒に支えてくださる会員を募っています。ご協力を宜しくお願いします。

■継続的な支援が可能な方

賛助会員になっていただけませんか

法人会員：1口 10,000円

個人会員：1口 3,000円

※ 当センターへの賛助会費・寄付金は税制上の優遇措置があります。

■振込先

① 大分銀行 大分駅前支店 普通預金 口座番号：5256165

② ゆうちょ銀行 口座番号：01730-3-111326 (振込取扱票は事務局にあります)

加入者名 (①・②ともに)

こうえきしゃだんほうじん おおいたひがいしやしえんせんたー りじちよう みついで よしお
公益社団法人 大分被害者支援センター 理事長 三井 嘉雄



編集後記

早いもので、もう今年度も終わりを迎えようとしていますが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

コロナウイルスの発生により、マスクの品切れが相次ぐ中、つい先日は、「トイレトペーパーもマスクと同じ紙製品である為、品切れとなる」「生産国の中国から輸入されている為、輸入が止まる」等の誤情報が拡散され、どこへ行ってもトイレトペーパーやティッシュペーパー、キッチンペーパー、紙おむつの棚までからっぽになるという事態となりました。

私も、ちょうど切れかけていたトイレトペーパーを買いにドラッグストアへ行ってみたのですが、棚はからっぽ…昔々、教科書で見たオイルショックの光景が脳裏をよぎり、まさか、こんな光景を目にする日がこようとは…と驚きました。

こうしたことが重なると、改めて「情報」の大切さを考えてしまいます。

大分被害者支援センターでも、毎月広報活動を行い、こういった団体なのか、こういった活動をしているのか、1人でも多くの方々に知っていただきたいと思っています。犯罪に遭われた方がいた時、当センターの存在を知っている方が一人でも多くいれば、その分、素早い支援に繋がると考えています。

大分被害者支援センターを知り、支えてくださっている皆さまに感謝し、これからも励んでいかなければ、と改めて思いました。



OITA VICTIM SUPPORT CENTER
ニュースレター